



syoun 絆



2019 March

No.559

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

人吉医療センター附属訪問看護ステーション 開設2年目に向けて

人吉医療センター附属訪問看護ステーションは昨年4月1日に開設し、お陰さまで1年が経ちました。がん終末期の症状緩和、在宅中心静脈栄養、在宅酸素療法、創傷処置、インスリン注射、内服管理など医療依存度の高い利用者が多い中、高齢者夫婦、認知機能低下、独居といった理由で在宅療養支援が難しくなる方もおられます。社会資源を活用しながら、できる限り在宅で療養生活が送れるように、利用者の問題点に焦点を当て、多職種と連携をとり取りながら、「家がよか」という思いを叶えるため日々がんばっています。利用者や家族からの「体調が良くなった」「最期の時間を自宅で過ごせてよかった」「わからないこ

とを相談できる」「24時間対応だから安心」「訪問が待ちどろしい」などの言葉が私たちの活力になっています。これからも地域包括ケアにおける在宅療養支援の要として、「訪問看護を利用して良かった」と思ってもらえるように努力していきたいと考えています。



訪問看護ステーション 看護師 藤村 友子・藤田 恵子

訪問看護を利用されたご家族より

2018年3月10日午後5時50分、自宅のリビングで、60歳と1日の「命の灯」が消えました。いつもと同じ生活の場所で、いつもと同じ生活の中で、約10か月。悲しいお別れでしたが、安らかに息を引き取っていく「母」を見届けることができたことは、本当に幸でした。膵臓ガンでした。

幸いなことに、長期にわたる強烈な痛みを伴う症状は、ありませんでした。母は、優しく、おしとやかな性格なのですが、異常なほど芯の強い女性で、「必ず治るから」と前向きに生活していました。亡くなる1ヶ月前までは、健康な時とほとんど同じ生活を送りました。2月下旬、トイレに行くのも辛くなり始めたころ、普段通りの生活を続けたいと強く願っている母の希望もあって、訪問看護をお願いしました。

当初は、終末医療における看護師さんのお仕事について、何一つ解らず、戸惑いました。病気が日を追うごとに悪化し、お風呂に入ることも難しくなった母に、ベッドの上で、頭を洗ったり、全身を熱いタオルで包むようにふきあげたり、背中やむくんできた足を優しくさすったり、力の湧きあがる温かい言葉をかけたりと、とにかく母の体や気持ちが楽になることに、時間を惜しまず、誠心誠意尽くしてくださいました。母はいつも「あー気持ちが良い」「本当にありがとう」と、言っただけでも癒やされていました。看護師さんの多岐にわたる目配り気配り、母ばかりか私たち家族への配慮まで……。

自宅で最期を見届けることを想像するとき、介護に疲れ切って、大変だろうとイメージされる方も多いと思います。でも、自宅だからこそ、本人も、家族も「死」を正面から向き合い、残された時間を大切にしながら過ごせたことに、心から感謝しています。

私達は、母のベッドをいつも誰かがいるリビングにおいでしました。父と主人と1歳になる息子と私は、ご飯を食べながら、テレビをみながら、リビングの隣のキッチンで料理をしながら、ときにはお酒をも飲みながら、母に話しかけたり、母の要求に応えたり、母にマッサージをしたりすることができました。母も家族だから、わがままが言えたり、私達も、家だから、気楽に母に寄り添うことができました。夜中、母に会いたくなると、廊下を歩くだけで、母に会うこともできました。

素晴らしい看護師さんに、言葉では言い尽くせないほど感謝しています。母が亡くなり、今でも、急に泣きたくなりますが、最後の最後まで一緒に過ごせたことに感謝しています。私も母のように、思い出がいっぱいの場所で、最後の1秒まで家族に見守られながら、この世を去ることができたら、なんて幸せだろうと……。

3月に父が末期の膵臓がんと診断され亡くなるまでの1か月間、自宅で訪問看護を利用しながら過ごしました。診断された当初はあまりに突然の宣告に父も家族も愕然としました。父のために何をしてくれるかを悩む中、父の普段どおりに生活したいという気持ちが伝わり、その気持ちを尊重することにしました。

“在宅で看取る”ことが実現できるのか不安でしたが、家族の傷ついた心や不安な気持ちも先生と訪問看護師の方に受けとめて寄り添っていただき、最後まで家族みんなで幸せな時間を過ごすことができました。父の病気に目を背けていた母にとっても、「こんなにゆっくりお父さんと過ごすのは初めてで嬉しい」と現実を受け止めることができ、自宅で療養して良かったです。本当にありがとうございました。

物 故 者 合 同 慰 霊 祭

3月8日(金) 14時から当院3階講堂において、物故者合同慰霊祭を開催しました。

ピアノの生演奏にてご遺族の方を出迎え、当院で平成29年10月1日～平成30年12月31日までにお亡くなりになりました561名の方を偲び黙祷を捧げ、献花を行いました。そして、人吉球磨の弦楽アンサンブル「楓」による献奏では、故人の方との思い出に心通わせ涙される方も多くありました。各テーブルで医療スタッフを交えての談話では悲しみを乗り越え、前を向いて過ごされるご家族の姿勢に励まされました。最後に、ご遺族代表の方にご挨拶を頂き、閉会となりました。



昭和37年から行っている物故者慰霊祭も今年で55回目となりました。昨年までは秋の夜に斎場で行っていた慰霊祭ですが、今回から開催時期を春の日中に、宗派にとらわれずそれぞれの方の思いを語らせる場にしたいと院長の思いを込めて、内容を変更し当院で開催しました。

多くのご遺族の方にご参列いただき、また医師をはじめとする職員も数多く参列し、会場が狭くご迷惑をお掛けしました。今後もご参列いただいた方の心に残る物故者慰霊祭を末永く続けていきたいと思っております。

日本医療マネジメント学会 熊本支部学術集会

平成31年3月16日。熊本県民交流館パレアにて「地域そして職場での連携と協働」をテーマとする日本医療マネジメント学会 熊本支部学術集会が開催されました。

この学会には医療に携わる様々な職種が参加しており、それぞれの視点での発表を聞くことができます。当院からは9名が演者として参加し、私はその1人として「教育」をテーマに発表を行ってきました。

参加が決まってから本番まで日がなく、準備は慌ただしいものとなりましたが、同じ部署の先輩方の協力を得て無事に発表を終えることが出来ました。初めての参加ということで、緊張しましたがとても良い経験になったと思います。

発表以外の時間では、退院後の支援や地域との連携など、各医療機関での取り組みを聴き、多くの発見や学び



がありました。中でも患者だけでなく、その家族・医療従事者を対象としたカウンセリングの新しい手法についての発表は印象深く、このような方法があるのかと驚きました。

この学会での学びを今後の業務に活かしていきたいと思っております。

薬剤師 馬場 結子

急性期から口腔内環境を整えよう！

当院は急性期から終末期までの様々な患者さんに対し、多職種がそれぞれの専門性を生かしながらケアに当たっています。しかし、特に急性期では重篤な疾患で入院すると、当然のことながら重篤な疾患への対応が最優先され、口腔内のケアは優先度が低くなってしまいう傾向があります。すると、口腔内の感染・汚染が進行し、う蝕・菌周病の悪化や口腔器官の運動や感覚(摂食嚥下機能)の低下、義歯不適合などの問題が出現してきたり、全身性の感染症(誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎など)を引き起こしたりします。せっかく重篤な状況乗り越えても、摂食嚥下機能が低下して経口摂

取が進まず、低栄養状態で創治療や全身状態の改善に時間がかかり、長期的な輸液や経管栄養が必要になることもあります。

現在、「口腔内環境を整えなければ栄養状態・摂食嚥下機能の改善は見込めない」という考え方が広がっています。当院でもOHAT(oral health assessment tool)を使用して口腔内の評価とケアを行う取り組みを始めています。必要に応じて歯科での専門的な介入も検討するなど、多職種で連携して患者さんの口腔内環境の維持・向上に努めています。

言語聴覚士 吉本 珠美

研修医挨拶

基幹型の研修医として、2年間の初期研修をさせて頂きました。元々は市内の病院での研修を希望していましたが、希望の病院に採用されず、一時はNEETになる覚悟もしましたが、二次募集という形で枠が空いていた医療センターに拾って頂き、今日という日を無事に迎えることができました。医療センターのスタッフの方々には、ご迷惑をおかけする事も多々ありましたが、とても温かく接して頂いて、お陰様で非常に楽しく充実した2年間を過ごす事ができました。これまでは縁のなかった人吉ですが、2年間を過ごして、第2の故郷と思えるようになった気もしなくはないです。

入職時の本誌の挨拶では、筋肉だけで体重を5kg増やしたいなどと戯言を申し上げておりましたが、結果的には5kgほど体重が減ってしまいました。2年間の研修で身も心も

人吉医療センターで2年間、基幹型臨床研修医をさせて頂いた木下聰です。ドクターの先生方をはじめ、看護師さん、スタッフの方々、皆様のおかげでドロップアウトすることなく2年間の研修を終えることができました。人吉は文字通り、人が良く、親切で、優しく、私にとってうってつけの研修場でした。2019年4月から熊本大学病院で後期研修をします。人吉、球磨で学んだことを患者さんに

基幹型研修医として2年間働かせていただきました。私の出身は湯前町であり、地元で働くことができとても嬉しかったです。

研修中には、結婚・妊娠・出産と人生における大きなイベントを経験しました。妊婦健診や出産の際には、先生方とスタッフの皆さんに大変お世話になりました。初めての経験で不安なことも多くありましたが、色々な相談に乗っ

学生のころに病院見学で救急外来での研修医の先生方の働きぶりを見て、人吉医療センターで研修をすることが心の中で半分決まり、その後の木村院長との飲み会でご馳走頂き「よし、ここで働こう」と決定致しました。

研修医として2017年4月から2年間、人吉医療センターにお世話になりました。何もわからずあたふたしていた自分を熱心に指導し、時には温かく見守って下さった先生

初期臨床研修医として2年間研修をさせて頂きました。熊本を出たいと思っていましたが、人見知りですぐに県外に出て新たに働く勇気もなく人吉を希望しました。1年目の初めは何もわからず迷惑をかけることが多々ありましたが、厳しくも優しく指導していただき少しは成長できたのかなと思っています。仕事でもプライベートでもお世話になった

基幹型臨床研修医の佐藤慶治です。

2017年4月に当院に入職させて頂き、2年が経過しました。

入職当初は何もできず周りのスタッフの方々や患者様にご迷惑をおかけすることも多々あったと思います。今となっては多少なりともお役に立てているのではないかと感じております。

当院での2年間の研修では地方の医療体制について多く



洗練され、無駄が削ぎ落とされたからでしょうか。己のマッスルメモリーを信じて、今後も修練に励みたいと思っています。

4月からは、精神科専攻医として後期研修に臨みます。身体のこと心のことも、僕でよければなんでもご相談ください。

またいつか、皆さんとお会いできる機会を楽しみにしています。2年間ありがとうございました。

臨床研修医 的場 祐二

還元し、患者さんに不利益にならないように、患者さんが健康な生活ができますよう、一生懸命頑張りたいと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。まだまだ未熟者ですが、誠実に医療人としての責務を全うし、皆様から安心され信頼される医師になりたいと考えております。

臨床研修医 木下 聰

て頂き無事出産を終えることができました。また、妊娠中の研修では上級医の先生方、研修医の同期と後輩、事務の方々にご協力いただき、無事に2年間で研修を終えることができました。

4月からは熊本大学病院で仕事に復帰します。育児との両立が不安ですが、自分ができる範囲で頑張ります。2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

臨床研修医 河野 真実

方、スタッフの方々のおかげで少しは成長できたかと思えます。

来年度からは熊本大学脳神経外科で新たな一歩を踏み出します。ご縁があればまた人吉で仕事をさせて頂こうと思えますのでまたその際は宜しく願います。2年間お世話になりました。

臨床研修医 河野 達哉

先生方や住みやすかった人吉を離れるのは寂しいですが2年間学んだことを生かして頑張っていきたいと思っています。4月からは熊本大学消化器外科に入局し勤務します。またどこかでお会いした際には声をかけてください。2年間ありがとうございました。

臨床研修医 金光 紘介

の事を学ぶことができました。

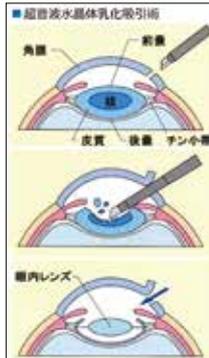
この2年間は今後の医師として働いていく中での核となるものだと思います。

4月からは熊本大学で整形外科医としての第1歩を踏み出させて頂きます。ご縁がありましたら人吉医療センターで働く機会もあるかもしれません。その際にはどうぞよろしく願いいたします。2年間大変お世話になりました。

臨床研修医 佐藤 慶治

最新の白内障手術機械(センチュリオン)と手術顕微鏡(ルメラT)を導入しました。

2019年2月より人吉医療センターでは次世代白内障手術装置『センチュリオン』(日本アルコン株式会社)と眼科手術顕微鏡『ルメラT』(カールツァイス)を正式に導入致しました(*2018年4月から同タイプの機械を試用)。白内障とは:眼の中で、カメラで言うとレンズの働きをしている組織を水晶体と言います。加齢などにより、水晶体が濁ってきた病気を白内障と呼びます。進行してくると、かすむ、まぶしいなどの症状が出てきます。生活に不便を感じたら、医師と相談の上で手術を考えます。



白内障手術とは:白内障手術では濁った水晶体を超音波の機械で削り取って吸引し(画像参照)、代わりに人工のレンズを挿入することが典型的な方法になります。

今回導入した最新の機械により、術中の眼内圧変動の減少と水晶体処理効率の向上が見込まれ、より安全な手術が行えるようになりました。

現在、当院では手術時のみ熊本大学病院からも医師が来院し、2人体制で行っております。

最新の手術機械を活かして、地域の皆様に貢献してまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。

【画像】引用:参天製薬
(<https://www.santen.co.jp/>)



眼科 伊良波 諭

特別臨床実習 - 地域医療 -

私は平成31年1月28日から2月15日までの3週間、熊本大学クリニカルクラークシップの地域医療実習の一環として、人吉医療センターで臨床実習を行わせて頂きました。この実習では熊本県南部に位置する人吉市という、普段実習を行っている熊本市内とは人口構成や一人当たり医師、該当医療圏の医療機関数といった様々な医療的環境の異なる地域での実習であったため、熊本県南部地域における地域医療の実情を知り、熊本市内との医療の比較を考えることができる、大変良い機会に恵まれました。さらに実習は人吉医療センター内だけではなく、訪問診療・看護で球磨地域のご家庭を訪問したり、週一回は五木村診療所での実習があったりと、幅の広い診療の一形態を経験できより多角的な視野から地域医療を考えることができる契機にも繋がりました。

また、実際の実習内容では将来医師として働く上で必要とな

りました。今回、地域医療実習として人吉医療センターで3週間実習をさせていただきました。

主に総合診療科でお世話になりましたが、他にも小児科、選択では外科や麻酔科、五木村診療所や救急外来など、様々な場を見せてもらいました。また診察や治療だけでなく、訪問看護にも同行させてもらいました。病院の外で患者さんが抱えている問題点等も見ることができ、そういったところは今後医師として働くようになって中々直接目の当たりにすることは無いと思うので、本当に良い体験になったと感じました。

外来陪席では問診や診察を実際に行ってカルテに記載したり、手術では積極的に手技をやらせてもらえたりと、大学の实習では中々できないところまで沢山関わらせてもらえて貴重な経験をすることができ、なお一層勉強していこうという意欲にも繋

る医療行為を学生のうちから経験させて頂ける、大変貴重な機会にも恵まれました。採血やルート確保、動脈血ガス採取や埋没縫合といった様々な手技に加えて、外来での問診やカルテ記載、救急外来での診察などは貴院での実習以外で経験できる機会はそうないため、これらの技能の訓練になると同時に、学生が医療行為を行うことに快諾して頂ける患者さん方に感謝して配慮することを自覚するきっかけを頂くことにもなりました。

最後にはなりましたが、この度の実習では院長先生や総合診療科の先生方を始め、貴院で働かれる先生方や職員の皆様には3週間もの間、大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



熊本大学医学部医学科5年 渡邊 圭祐

りました。

今回の実習で特に印象的だったのは五木村診療所で、大きな病院ではすぐにはできるような検査も五木村診療所では出来ない、そういう検査に頼れない環境で診療にあたって、様子見をするのか、すぐに病院に受診させるのか判断を下す難しさを体感しました。

実習外の部分では、美味しいところを紹介してもらったり、食事をご馳走になったり、温泉に入らせてもらったりと大変楽しくしていただき、人吉の空気を満喫することができました。

お世話になった先生方、研修医の先生方や多くの医療スタッフの方々に心より感謝申し上げます。充実した3週間を過ごすことができました。ありがとうございました。

熊本大学医学部医学科5年 渡邊 美早

退職者送別会



3月11日(月) 当院3階講堂にて送別会を行いました。
3月31日付で28名が退職・異動となります。中には、39年勤務された方もおり、思い出話に花が咲き笑顔溢れる和やかな会となりました。28名のみなさん、お疲れ様でした。
新天地でのご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

平成31年3月をもって退職となりました。長い間本当にお世話になりました。

私が入職したのは昭和55年。その頃生まれた方も、今では素敵な大人に成長されていると思います。

思い返せば、歯科衛生士の生まれたてが、初代の歯科衛生士として入職したのですから、当時の先生も不安だったことでしょう。しかし、その先生とも長く同勤できず、現在の口腔外科が開設されました。これが新しい試練の始まりでした。

口腔外科? どんなことするの? 私で良いの? どんな先生が来るの? 当時は不安以上の心境だったと思います。はじめの頃は、歯科治療の合間に口腔外科的な状況でしたから、先生も私も他のスタッフも戸惑うことだらけの日々でした。一年おきに変わる先生、変わる看護師。今だから言えるエピソードも様々です。よく乗り越えたなど、胸をなで下ろしている今日この頃です。

私事では、結婚、出産、子供の入院と、この病院と共に学び、成長してきました。これも素敵な職員の方々に、沢山支えられていたからだ

と、本当に感謝に耐えられません。ありがとうございました。

これから何するの? って聞かれます。何もなかったら、仕事を取られた抜け殻と化してしまうかもしれませんね。ところが、神様は私を見捨てられませんでした。

五十歳過ぎて始めた絵手紙がこうじて、今では毎年の干支を頼まれるほどになり、熊本銀行人吉支店、肥後銀行2店舗でのプチ個展まで開催させて頂いています。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、4階事務室の電話交換横には、季節を知らせる絵手紙を置いて頂きました。

本当に素晴らしい仕事を、友を、時間を与えてくださった事に、心から感謝いたします。

またどこかでお会いできたら、お声かけくださいね。

本当にお世話になりました。

歯科衛生士 米多 万希子



連携施設探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して 地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。

今回は「特別養護老人ホーム あさぎりホーム」さんです。

特別養護老人ホーム あさぎりホーム Vol.28

利用される方の能力に応じて「自分らしく暮らす」ことができるよう支援されています。平成7年に開設され、明るく家庭的な雰囲気の下、地域に寄り添った社会福祉法人 洋香会の特別養護老人ホームあさぎりホームです。

【施設の特徴・理念】

信頼・尊重・向上

当施設は、県道48号線沿いに立地し、周囲を田園に囲まれ自然環境に恵まれた施設です。車の交通量も少なく大変静かな環境です。また敷地が7000㎡でゆったりとして、日当たりも十分です。

施設全体で接遇・言葉使いに細心の注意を払いご利用者の尊厳を守るためのケアを行っております。

また、施設・通所・短期入所全てにおいて自立支援を基本に日常生活動作訓練を重視し、生活行為力の維持向上に力を入れております。様々なアクティビティ活動・レクリエーションを提供し認知症の予防など、行事イベントを行い楽しくメリハリのある生活を送って頂いております。

【対象者】 要介護3から5の認定を受けた方

【サービスの内容】

特別養護老人ホーム 従来型 定員30名、ユニット 定員20名

(予防) 短期入所生活介護 定員6名

(予防) 通所介護 定員25名

居宅介護支援事業所

【地域の皆様に一言】

地域貢献を年間の重点取り組み事項に掲げています。気軽に来園で



きる雰囲気作りを心がけています。どんな御用でもよいので親身に対応します。ぜひ一度来てください。

【お問い合わせ】

TEL: 0966-45-5683 FAX: 0966-45-6095

相談員 小林昌弘

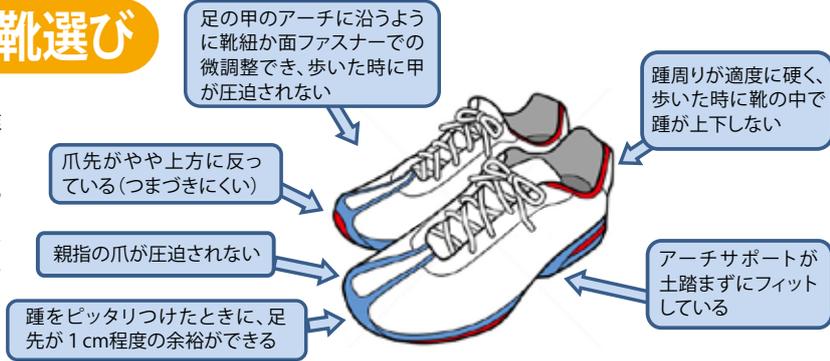
【訪問者の感想】

訪問した際、まず目を引くのは、施設入口の柵に飾ってあるかかし達です。季節ごとに柵の飾りを変えられているようで、七夕時期には七夕飾り、秋にはかかし、冬には電飾をされているそうです。県道に隣接している施設で、その道を通られる方を楽しませたいと地域の高校や保育園などと共同し年1回作成されているようです。訪問の際は、ぜひご覧ください。

H31.2月号 vol.26に一部誤りがございました。訂正させていただきました。

転倒しないための靴選び

散歩により季節となりました。体力維持のために定期的な散歩は有効です。しかし、脚に合った靴でないと転倒や痛みが生じることがあります。靴のチェックポイントを確認して、安全な散歩を楽しみましょう。



リハビリテーション科 理学療法士 米倉 正博

おひな御膳

3月3日、当院では今年も入院患者さんへひな祭り料理を提供しました。

桃の節句とも言われ、女の子が健やかに成長しておひな様のように幸せが訪れることを願う行事です。

料理にひなあられもそえて、彩り豊かな見た目です。少しでもお食事を楽しんでいただけたよう工夫しました。



今後も患者様に季節を感じていただけるよう、行事食を充実させていきたいと思っております。

栄養課 内田 紗椰

新任紹介



尾方 俊美 (5階西病棟・療養介助員)

最終卒業校：熊本音楽短期大学

趣味：音楽鑑賞、ピアノ

生活信条：想像力を豊かに、できる限りの心遣いと奥ゆかしさを大切にしています。

自分の性格：友達からは「天然」「バカ正直」「バカ真面目」と言われています。

自分のコマーシャル：動物が大好きです。我が家には2kgのトイプードルと保護猫にパピヨンがいます。皆様のご指導よろしくお願ひ致します。



白濱 里美 (5階病棟・療養介助員)

最終卒業校：水俣高校

趣味：バレーボール

モットー：こだわらない、ながされない

自分の性格：楽天的だが、後悔しがち

自分のコマーシャル：今のマイブームは「筋トレ」。本気なやつではなく、ころばぬ先の杖的なものです！

ペインクリニック 外来閉鎖のお知らせ

当院のペインクリニック外来は担当医退職のため、2019年3月をもちまして閉鎖とさせていただきます。突然のことで、皆様方にはご迷惑とご不便をおかけすることとなりますが、ご理解とご協力の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

3月の勉強会報告

3月1日(金)第14回Canser Net研究会

「がん免疫療法の進歩」

熊本大学大学院生命科学研究部 呼吸器内科学分野

助教 富田 雄介先生

3月5日(火)第97回乳腺カンファレンス

「乳癌リンパ節転移のエコー像について」

当院 豊原 早織 臨床検査技師

「男性乳癌に対して化学療法を施行した一例」

当院 臨床研修医 宮崎 至先生

「過誤腫疑いの症例・ductal cyst」

当院 臨床研修医 木下 聡先生

3月6日(水)第3回出張ダビンチ塾 神経難病診療体制構築事業講演会

「脳神経難病の診療のポイントと多職種連携アプローチ」

熊本大学医学部附属病院 脳神経内科、神経難病診療体制構築事業

特任教授 山下 太郎先生

3月6日(水)第104回消化器カンファレンス

「内視鏡医が考える、これからのPPIの役割」

熊本大学医学部附属病院 助教 庄野 孝先生

3月14日(木)臨床に役立つ漢方セミナー

「がん治療における漢方薬の有用性-初期研修医への漢方教育の実際を含めて-」

那覇市立病院 外科 部長 友利 寛文先生

3月15日(金)人吉・球磨 産婦人科セミナー/人吉球磨薬剤師会研修会

「これからの卵巣がんの治療戦略」

当院 副院長 大竹 秀幸先生

「胎盤のはなし-10か月の臓器寿命がもたらす不思議な病態-」

熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科分野

教授 片淵 秀隆先生

